

知の拠点化と地域に向き合う教育・研究の推進

～岩手県立大学「地域創造プラン」～

1 趣旨

本学は、「地域に根ざした実学・実践的教育研究活動」「地域に開かれた大学としての教育研究活動」等を教育研究の特色とし、また「地域の中核人材育成と活力創出に貢献する大学」を第二期中期目標として掲げている。これまで、各学部及び各本部レベルでの様々な計画と一定の実績・成果を挙げてきたところであるが、高等教育のユニバーサル化を背景に、「社会人基礎力」「学士力」「地域再生の核となる大学づくり」「地域社会と公立大学との創造的な連携」等の国や社会からの大学への期待や要望の高まりにより、全学的・実質的な地域と大学との関わりが求められている。

このような現状を踏まえ、本学が有する様々な資源を活用しながら、中期計画のより一層の推進を図るとともに、地域に向き合う全学的な教育研究推進体制を構築し、地域社会の中核となる存在としての本学の教育研究活動の向上(知の拠点化)を目指すための「地域創造プラン」を策定することにより、岩手の未来を創造する地域中核人材の育成と地域の活力創出に資するものである。

2 取組みの骨子

(1) 第二期中期計画「重点計画」と国の高等教育政策の動向を踏まえたプログラム

① 第二期中期計画による重点計画

- | | |
|---|---|
| 1 | 目的意識、学習意欲にあふれる入学志願者の戦略的な確保 |
| 2 | AP ⁱ 、CP ⁱⁱ 、DP ⁱⁱⁱ に基づく体系的で一貫性のある教育プログラムの実践
・学生の人間性を培う基盤教育　・学生の主体性を促す実践的な専門教育の充実 |
| 3 | 学生の就業力育成による高い就職力の維持と県内就職の推進 |
| 4 | 地域に評価される研究の推進と県民への積極的な公表 |
| 5 | 産学公連携事業の強化とシンクタンク機能の発揮 |
| 6 | 大学の理念及び目的の実現に貢献する意欲的な教職員の育成 |

② 教育における地域（社会）貢献の拡大（地域を志向した教育、研究、社会貢献活動）

③ 教育の質保証への取組み

(2) 既存の組織を横断的に活用し、かつ活性化させる体制

(3) 学長のリーダーシップの下、戦略的かつ機動的な業務運営

3 プログラム（別紙1）

(1) 地域との連携の強化

地域再生の核となる大学づくりを積極的に推進するため、地域課題（ニーズ）と学内の資源（シーズ）の効果的なマッチング機能の拡充を図り、地域との連携をより強固なものとする。

- ① 教育・研究活動における地域との連携活動実績のマップ化
- ② 設置団体（岩手県）、市町村及び地域の様々なステークホルダーとの情報共有、対話の場の設置
- ③ 地域協働研究及び地域志向教育等の成果の地域への積極的な発信
- ④ 地域インターンシップ推進組織による連携の拡充
- ⑤ 学生の主体性を活かした地域活動への支援

i 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

ii 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

iii 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

(2) 地域志向教育の再構築

地域中核人材の育成を推進するため、地域に根ざし、地域に関わる教育の充実を図る。

- ① 学生が県内各地の現状と課題に直に触れ、大学での主体的・能動的な学びへのきっかけを作ることを目的とする「地域創造学習プログラム」(別紙2)の実施
- ② 教育課程への「地域志向教育」の拡充

(3) 教育の質保証

地域志向教育の構築と連関して、教育の質保証への取組みを推進する。

- ① 全学的な AP、CP、DP の整備による基盤教育と学部専門教育との体系化
- ② アクティブ・ラーニング^{iv}を積極的に取り入れた授業の拡大
- ③ 授業計画(シラバス)の充実
- ④ 新たな手法による FD の活性化と SD との融合
- ⑤ IR^v(Institutional Research)機能の強化と学修成果の可視化、授業改善手法の検討

(4) 人材育成への連携

地域における知の拠点構築のため、岩手県内の中学校や高等学校、及び岩手県内で教育活動を展開している海外の教育機関等との連携の取組みを推進する。

- ① 教育委員会等と連携した、中高生の大学進学への目的意識向上への取組み
- ② 入学前準備教育、初年次教育のあり方に関する検討
- ③ 意欲・能力・適性を多面的・総合的に評価・判定する新たな入学者選抜方法の検討
- ④ 海外教育機関とのサービス・ラーニング^{vi}等を通じた連携の推進

4 推進組織体制

地域創造機構	・ 学長、副学長、本部長その他主要教職員が構成員 ・ 基本方針、企画立案、評価改善等に関する事項を所掌 ・ 戦略的かつ機動的に学長を補佐
推進委員会	・ 学部長等会議と同一の構成員、学内の連絡調整を所掌
地域連携・協働会議	・ 各本部横断的な教職員構成、プログラム(1)を所掌
地域志向教育会議	・ 各本部横断的な教職員構成、プログラム(2)(3)を所掌
人材育成連携会議	・ 各本部横断的な教職員構成、プログラム(4)を所掌

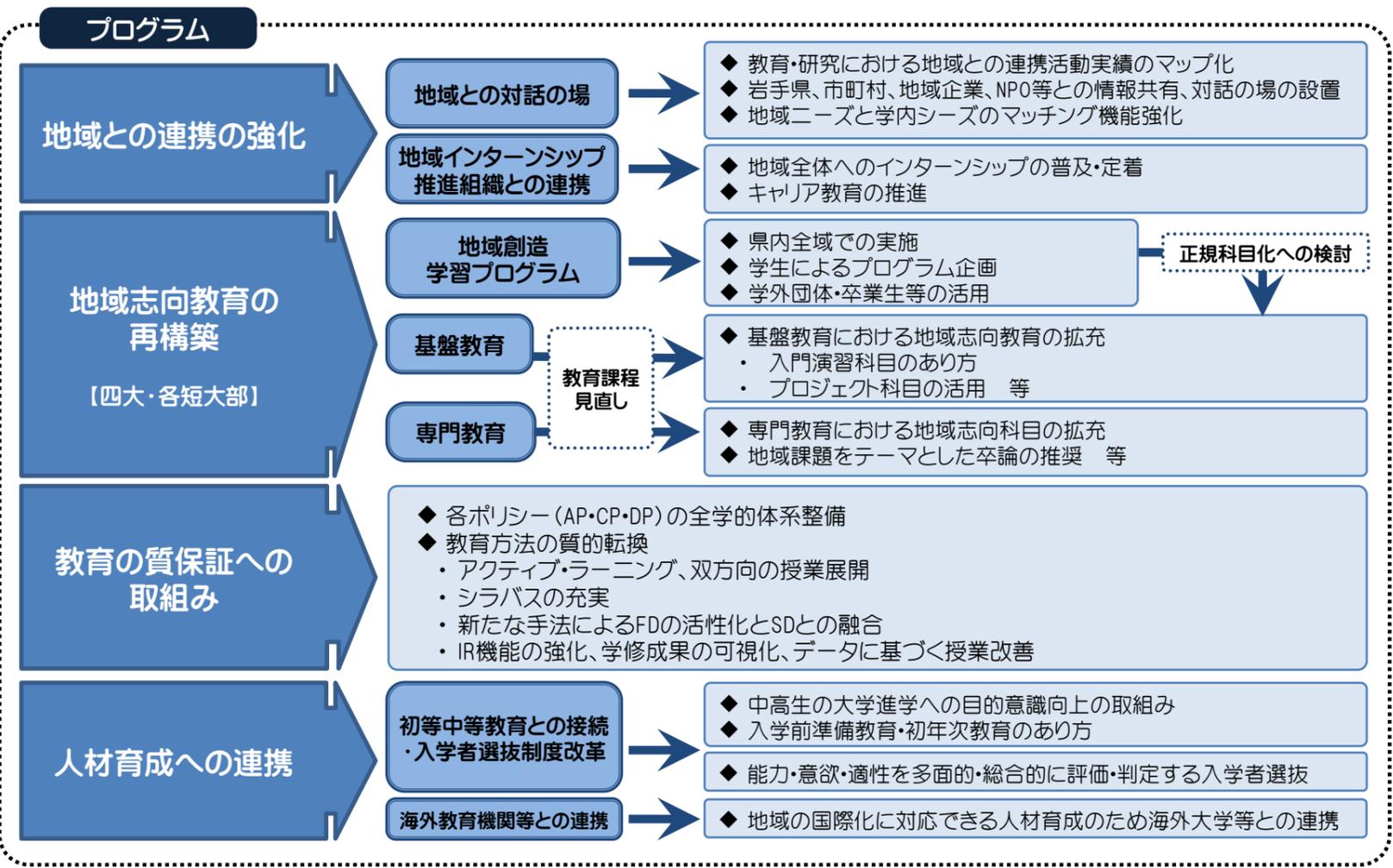
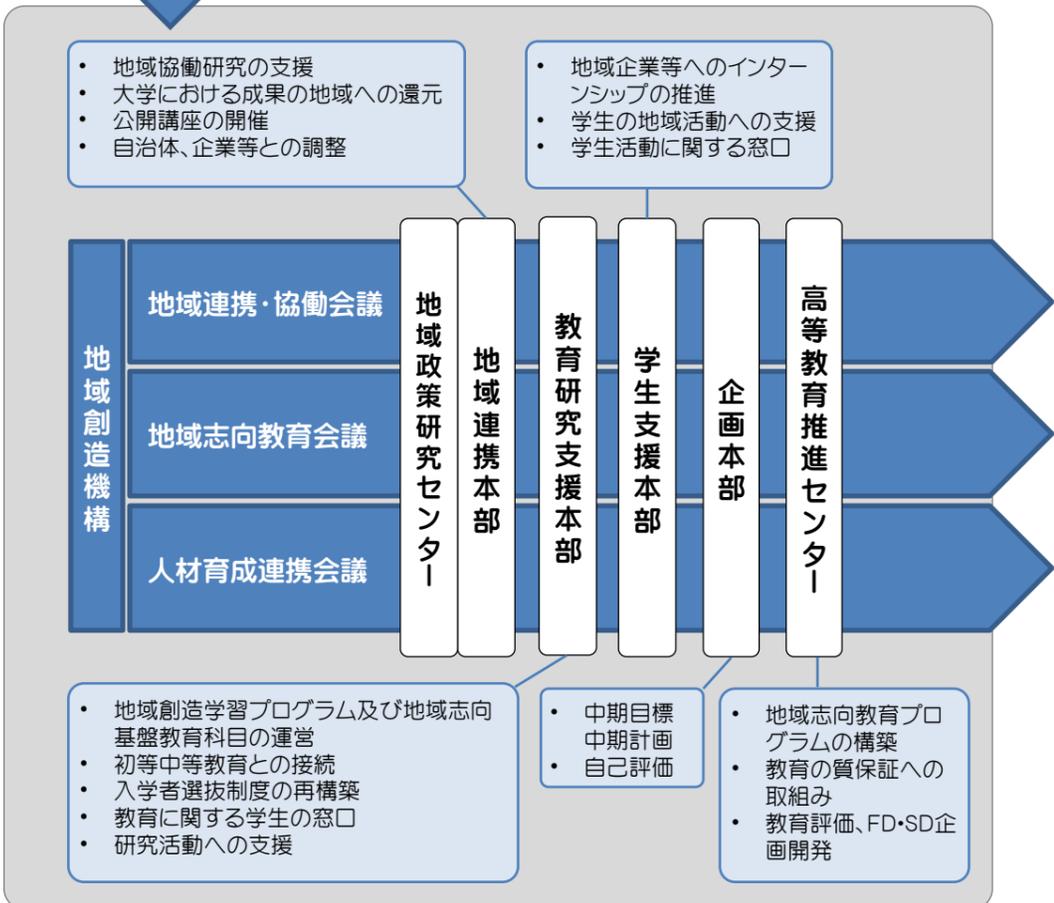
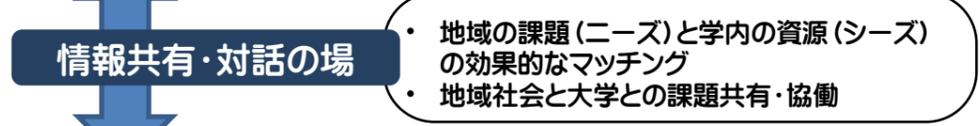
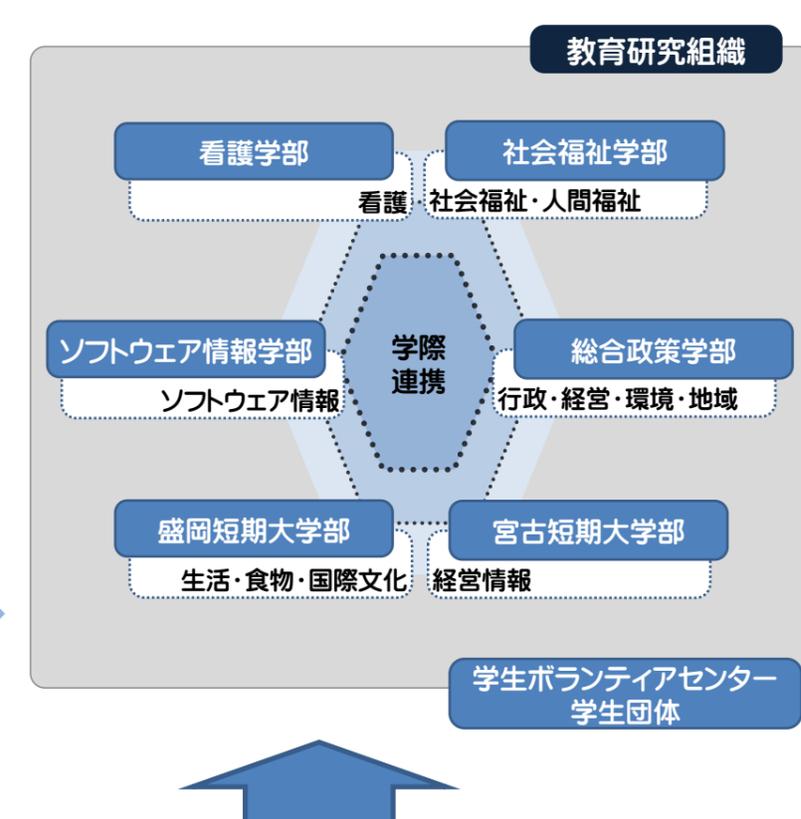
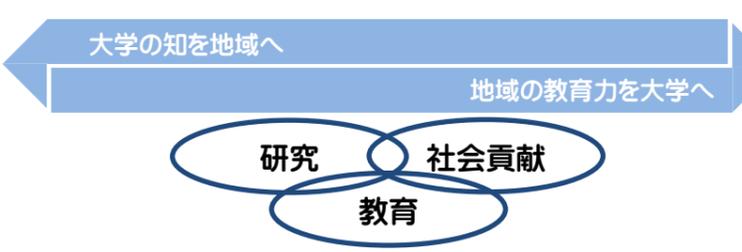
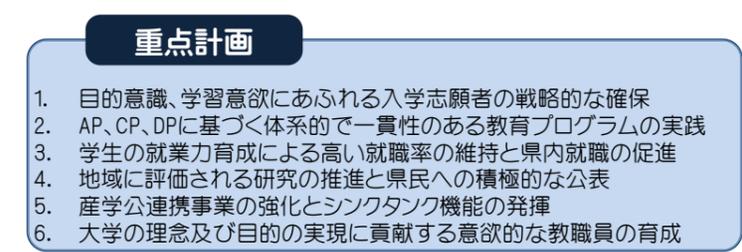
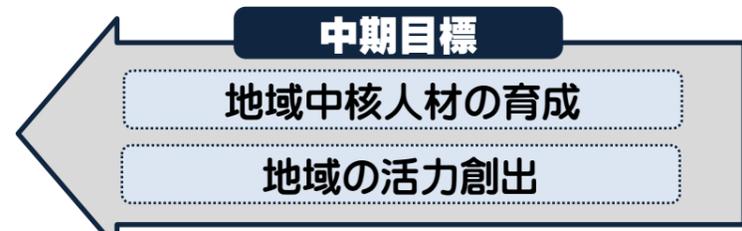
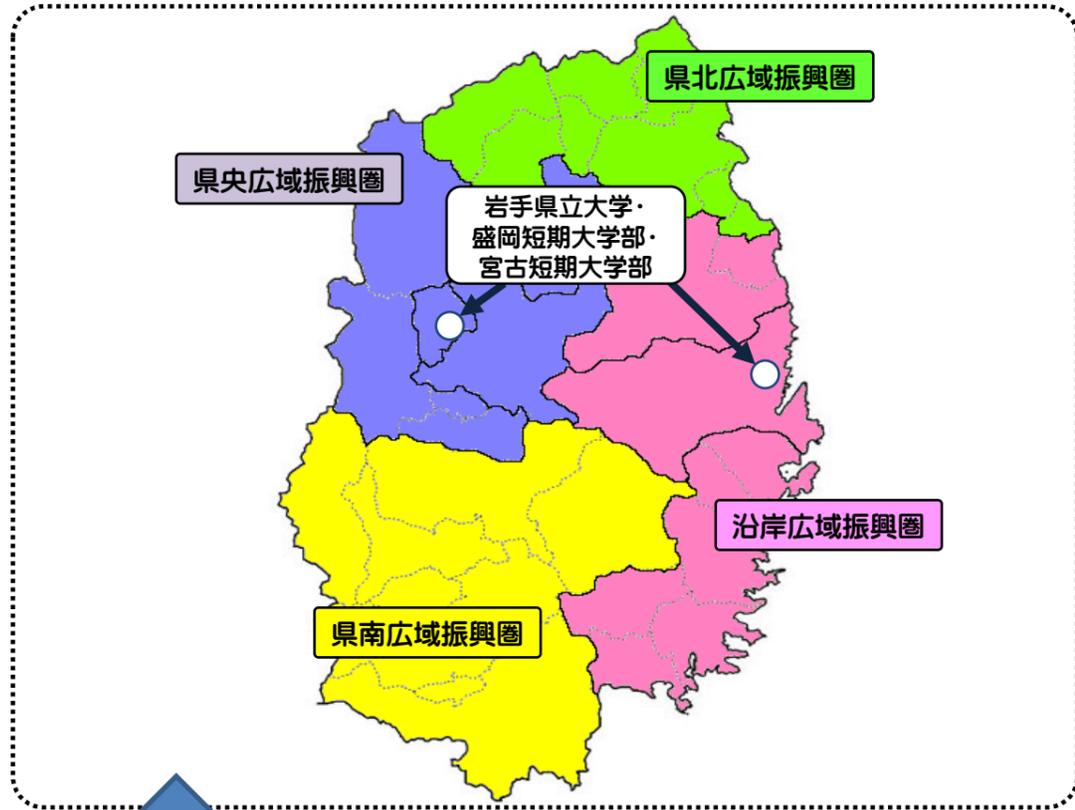
^{iv} 教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。(「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」平成24年8月28日中央教育審議会答申)

^v 一般に、教育、研究、財務等に関する大学の活動についてのデータを収集・分析し、大学の意思決定を支援するための調査研究を指す。(「大学のガバナンス改革の推進について」平成26年2月12日中央教育審議会大学分科会審議まとめ)

^{vi} 教育活動の一環として、一定の期間、地域のニーズ等を踏まえた社会奉仕活動を体験することによって、それまで知識として学んできたことを実際のサービス体験に活かし、また実際のサービス体験から自分の学問的取組や進路について新たな視野を得る教育プログラム。サービス・ラーニングの導入は、①専門教育を通して獲得した専門的な知識・技能の現実社会で実際に活用できる知識・技能への変化、②将来の職業について考える機会の付与、③自らの社会的役割を意識することによる、市民として必要な資質・能力の向上、などの効果が期待できる。(「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」平成24年8月28日中央教育審議会答申)

知の拠点化と地域に向き合う教育・研究の推進

～岩手県立大学「地域創造プラン」～



地域創造学習プログラム

～いわてを知り、いわてを学び、いわての未来を創造する～

目的

学生が東日本大震災津波被災地をはじめとした岩手県内各地域の現状と課題に直に触れ、その課題の解決方法を考察することにより、大学(短期大学部)での**主体的・能動的な「学び」へのきっかけ**を作るとともに、将来の地域中核人材の育成と地域の活力創出に資する。

内容

- 各コース30名程度の学生を、事前学習を経て岩手県内各地域に2日間の日程で派遣
- 地域の視察、講話、体験学習等を通じ、その現状と課題を学習
- コース毎に報告書をまとめ、参加学生による報告会を実施

特徴

地域への視点

初年次の学生に「地域」をフィールドとした学びを体験させることにより、**地域に対する視点と課題意識**を醸成。

学部混成型 チーム編成

岩手県立大学4学部、盛岡短期大学部2学科、宮古短期大学部1学科の学部混成チーム編成により、**多角的な視野と学際連携**を体験。

宿泊型 アクティブ・ラーニング

1泊2日のフィールドワークを原則とし、発見学習、体験学習により学生の**主体的・能動的体験学習と学生相互の連帯感・目的意識**を共有。

学生による プログラム企画

プログラム企画と当日コーディネイトに先輩学生(学生団体LINK-topos(注1)等)が関わることにより、**学生目線によるプログラム構築と、企画に携わる学生の成長**を誘導。

学外団体・ 卒業生等の活用

学内教員がアドバイザーとしてプログラム全体をサポートするほか、卒業生である**教育復興支援員(注2)**を活用。

地域志向科目 への発展

当面は任意参加による課外学習とし、将来的には**単位化・必修化**を検討。

県内全域を 対象とした コース編成

平成25年度の試行実施(宮古地区・大船渡地区の2コース)を経て、平成26年度は内陸部のコースを追加(全5コース)。今後さらに対象地域を**県内全域に拡大**予定。

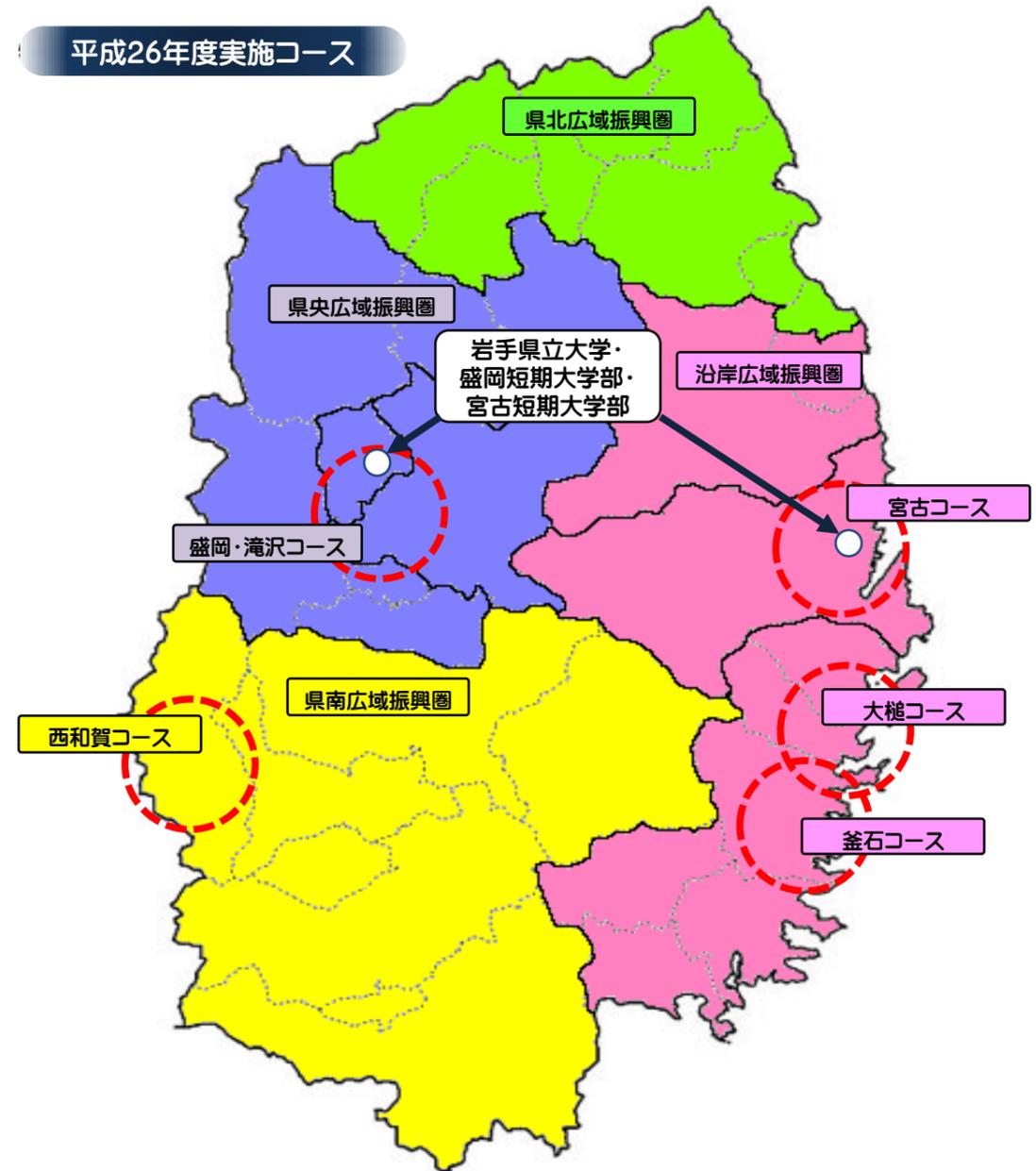
(注1) 学生団体LINK-topos

「学生のみなぎを大学・地域に最大限活かし、地域の課題解決と未来創造に貢献する」ことを基本使命とする学生団体。平成24年度の公立大学学長会議(主催:一般社団法人公立大学協会)において行われたワークショップ「公立大学学生による被災地支援と地域防災活動」に参加した、岩手県立大学学生ボランティアセンターを母体とする学生が中心となって活動している。このワークショップを契機として組織された、全国の学生による「公立大学学生ネットワーク」の学内組織でもあり、学生・教員・職員の三者による協働を目指している。

(注2) 教育復興支援員

東日本大震災津波により被災した地域に対し岩手県立大学が行う復興支援活動等について、大学と連携・協働して活動することを目的として委嘱される職員。被災地の復興支援活動のほか学生のボランティア活動の支援等を主な任務とし、平成26年度は「特定非営利活動法人いわてGINGA-NET」と「一般社団法人子どもエンパワメントいわて」に所属する岩手県立大学の卒業生2名が委嘱されている。

平成26年度実施コース



コース	期日	内容(予定)	定員
宮古コース	6/28～ 6/29	【被災地の現状と課題を学ぶ】・田老地区調査 ・三陸鉄道調査 ・現地の方との交流 ・宮古市長講話	30 名
大槌コース	7/12～ 7/13	【被災地の現状と課題を学ぶ】・復興状況視察調査 ・大槌臨学舎 ・刺し子プロジェクト ・大槌高校生との交流 ・蓬萊島、木碑	30 名
釜石コース	7/12～ 7/13	【被災地の現状と課題を学ぶ】・サロン活動 ・郷土資料館 ・宝来館での懇話会 ・仮設商店街調査	20 名
西和賀コース	10/4～5 (予定)	【中山間地域の福祉と環境政策を学ぶ】・自立訓練事業 ・保健師講話 ・最雄資料館 ・現地の方との交流 ・碧祥寺での講話	30 名
盛岡・滝沢コース	11～12月 (予定)	【地元の地域政策を学ぶ】 (盛岡市)・講演 ・盛岡市内調査 ・企画書作成ワークショップ (滝沢市)・学長との懇話会 ・滝沢市内調査 ・ワークショップ	30 名